

# CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

## 1. 建物概要

建物名称	あきは複合施設(仮)建設工事	
建設地	新潟市秋葉区車場字新通上893番1外6筆	
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	
建物用途	病院	
竣工年	2021年8月 予定	
敷地面積	3,025.39 m <sup>2</sup>	
建築面積	976.59 m <sup>2</sup>	
延床面積	4,509.21 m <sup>2</sup>	
階数	地上5F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2020年10月23日	

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B-	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{46.4}{48.0} = 0.9$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.3		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 3.5
			設備の更新性	Q2.3.3 3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.0		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 3.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	LR2.1.1 4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全と創出	Q3.1 2.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 3.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

耐久性・清掃性・防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。  
 ケーブルラック・PF管採用により、設備の更新性に配慮している。  
 複層ガラス採用、断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。  
 自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。  
 LGS下地を採用し、躯体と仕上げ材が容易に分別可能とするなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。

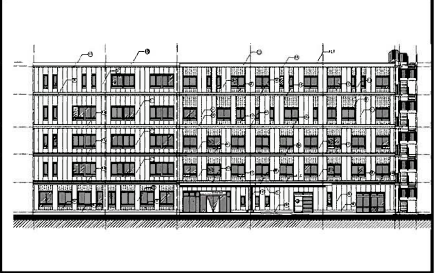
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

# CASBEE 新潟

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	あきは複合施設(仮)建設工事	階数	地上5F
建設地	新潟市秋葉区車場字新通上893番1外6筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	平均居住人員	200人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年8月 予定	評価の実施日	2020年10月23日
敷地面積	3,025㎡	作成者	株式会社 クレイズプラン
建築面積	977㎡	確認日	2020年10月23日
延床面積	4,509㎡	確認者	株式会社 クレイズプラン



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)

②建築物の取組み 93% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)

③上記+②以外の 93%

④上記+ 93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
農業地帯に計画していることから、外部の照明設備は必要最低限に抑え周辺環境へ配慮している。敷地内では雨水貯留施設を計画しており、隣接する水路へ流入する水量に配慮している。		Q1 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気環境にも十分配慮している。 Q2 補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
複層ガラス採用、断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。昼光率を高めに設定し、ブラインドや庇を採用するなど光・視環境に配慮している。	天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。耐久性・清掃性・防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。	空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。緑地を設けることにより良好な景観を形成している。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を93%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。適切な量の駐車場を確保、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保し利便性に配慮、2か所の出入口を設置するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される